

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		多摩市ひまわり教室		公表日 令和8年2月3日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	93.3%	6.0%	・指定基準の約3倍の広さがある。 ・2クラス編成で運営している日もあり、自由遊びや活動では空いている部屋やプレイルーム、ベランダなども積極的に使用している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	93.3%	6.0%	・国基準に東京都の加算を入れると、定員27名のひまわり教室は職員数が7名（1日当たり）となっているが、多摩市は9名で予算化している。また、職員の病休や研修、出張等を想定して、今年度は毎日11～13名を雇用している。特に今年度は定員に達していないため、職員の割合は多くなっている。 ・職員の病休などには、事業所全体で調整し、必要なクラスに職員を配置している。	こどもたちが主体的に行動できるような環境調整や遊びの提供、職員の動線、連携などは引き続き、工夫が必要。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	86.7%	13.3%	・マットや棚などでエリアを仕切り、各スペースの使い方を分かりやすくしている。また、活動に応じて棚やパーテーションを移動させ、こどもたちが活動に取り組みやすい空間を作っている。 ・こどもに合わせて写真やイラスト、マークなどを提示し、こどもたちが分かって行動できることを大切にしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	53.3%	46.7%	・室内消毒、掃除を毎日実施し、衛生に努めている。また、年3回大掃除を実施している。 ・年3回業者による床清掃を多摩市の依頼で実施している。	・建物自体の老朽化が進んでおり、軽微な修繕では限界がある箇所が増えている。 ⇒修繕箇所についてはその都度多摩市発達支援室と共有しながら、修繕していく。 ・掃除機のかけ忘れ等がある。 ⇒掃除のチェック表を導入していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	86.7%	13.3%	・気持ちが落ち着かない時には、カームダウンエリアを使用できるようにしている。	・少人数でのグループで活動することも多いため、空き部屋がないこともあり、グループ編成や部屋の使用については検討が必要。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	93.3%	6.7%	・全体会議では、業務等について検討し、それを実行した上で振り返る機会を設けている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	93.3%	6.7%	・年に1回の保護者アンケート及び3年に1回の第三者評価の中で保護者アンケートを実施している。 ・行事では必ず保護者アンケートを実施している。 ・アンケートでいただいたご意見に関しては、改善策等を検討し、保護者会等で説明をしている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	93.3%	6.7%	・職員面談を年3回（非常勤職員は年2回）実施し、意見等を確認している。 ・職員面談等で挙がった意見に対して、全体会議等で改善策を話し合っている。また、すぐに改善できるものは改善している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100.0%		・3年に1度、第三者評価を受審している。 ・オンブズマンや外部のスーパーバイザーを導入している。指摘事項は会議等で検討し、改善に向けて取り組んでいる。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100.0%		・法人内の研修（児童分野研修、実務者研修など）事業所内での研修（事例検討会や「コドモン」研修、虐待防止研修、感染症対策研修など）、OJTの実施など多くの研修を企画・実施している。 ・常勤職員の研修計画を策定している。	・非常勤職員の研修の機会が限られている。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		多摩市ひまわり教室				
公表日 令和8年2月3日						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100.0%		・事業所として大切にしたい療育の考え方も踏まえた支援プログラムを作成し、法人のHP及び「コドモン」の「資料室」にて公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100.0%		・個別支援計画作成時には、法人共通のアセスメント表を作成している。 ・新版K式発達検査などのフォーマル検査や専門職（心理・ST・OT）の評価等も把握した上で個別支援計画を作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	93.3%	6.7%	・毎日の振り返りでは、こどもの様子や変化等を共有している。その情報と支援記録をもとに個別支援計画を作成している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	93.3%	6.7%	・個別支援計画作成時には、全員の個別支援計画の読み合わせを行う会議を実施し、共有している。	・計画に沿った支援の実践という点では職員の支援スキルの向上が求められる。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	86.7%	13.3%	・法人共通のアセスメント表を活用している。 ・新版K式発達検査などのフォーマル検査や専門職（心理・ST・OT）の評価を実施している。	・その場での即時アセスメントは職員のアセスメント力の向上が求められる。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100.0%		・「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」「地域支援」に対応した項目の中から、こどもの発達ニーズと保護者の希望に応じた項目を選択し、ねらいと支援内容を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100.0%		・クラスの常勤職員でプログラムを立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100.0%		・こどもの発達段階やねらいに合わせて、同じ活動を繰り返し提供することもあるが、同じ活動の中で少しずつ変化させたり、発展させることを意識している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100.0%		・活動内容に応じて、少人数で行う・クラス全体で行う等、調整している。 ・専門職（心理・ST・OT）による療育は個別で実施している。専門職が評価したうえで、必要に応じて提供している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	73.3%	26.7%	・ホワイトボードを使用し、活動内容やスタッフの動きなどを共有できるようにしている。 ・非常勤スタッフの勤務に合わせて、次の活動内容等を伝えている。	・送迎の時間が早くなった事で、支援内容など共有できていないこともある。 ・活動以外の支援についての共有が不十分。 ⇒クラス日誌の書式を変更し、前日の子どもの様子や支援の変更などが一目で分かるようにする。 また、来年度は勤務時間を変更し、支援開始前の打ち合わせができるようにする予定。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	73.3%	26.7%	・振り返りの時間を設けている。 ・会議日や面談期間は振り返りが実施できないため、掃除や記録の時間等に非常勤スタッフと振り返りやその日の事を共有している。 ・振り返りの内容はクラスの業務日誌に記載している。	・会議日や面談期間は実施できない事がある。	

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		多摩市ひまわり教室		公表日 令和8年2月3日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	73.3%	26.7%	・支援記録はICT化しているため、支援の検証が効率的にできている。	・支援計画作成期間、面談期間、行事前など業務が煩雑な時期は、記録が抜けていることがある。 ・記録の時間を設定するなどの工夫が必要。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100.0%		・半期ごとに関係者から情報収集し、モニタリングを実施している。こどもの発達ニーズに合わせて、個別支援計画を修正している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100.0%		・児童発達支援管理責任者やクラス担任など、こどもに関わる職員が複数で参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100.0%		・多摩市発達支援室とは情報共有の会議（月1回）の開催及び日々、担当者間での情報共有をしている。 ・必要に応じて、市や医療機関、幼稚園・保育園等地域の関係機関との関係者会議に参加している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100.0%		・在園する保育園・幼稚園に年に1～2回程度訪問し、こどもの様子や支援方法について情報共有を行っている。また、園からの見学も受け入れている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100.0%		・入学前に支援引継ぎシートを作成している。 ・5月頃に就学先に訪問し、支援引継ぎシートの説明及び入学後の様子を確認している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	86.7%	23.3%	・島田療育センターの協力を得て、スヌーズレンの体験会を実施している（年4回程度）。 ・外部のスーパーバイザーを導入し、年に3回、実際の療育の様子を見てもらい、助言をもらっている。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	40.0%	60.0%	・地域の社会資源の活用として、図書館や商店街の駄菓子屋さん、バラアートへの出展などを行っている。	・地域資源の活用は行っているが、他の子どもと活動するには至っていない。 ・利用児にとっての交流の意味を考えると、継続的な交流が望ましく、交流の機会の開拓が必要。	

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		多摩市ひまわり教室				公表日 令和8年2月3日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
関係機関や保護者との連携	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100.0%		・親子参加週間、個別療育、面談、送迎時、サービス提供記録票、「コドモン」、電話、保護者会でのクラス懇談会等の多くのやりとりの機会がある。保護者とのやりとりの内容は職員間で共有している。 ・日々の送迎やサービス提供記録では、こどものその日の様子を伝えるように意識している。		
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100.0%		・保護者会の中で学習会を年3回実施している。 ・今年度は「先輩ママとお話し会」を実施した。 ・地域の研修情報は「コドモン」で配信及び掲示している。		
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100.0%		・契約時に多摩市発達支援室が実施している。大きな変更があった時は、保護者会で説明している。		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100.0%		・面談前に保護者が記入する支援計画フォームをもとに計画を作成し、面談時にも保護者の意向を確認している。		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100.0%		・作成した個別支援計画は面談にて保護者に説明し、必要に応じて修正し、同意を得ている。		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100.0%		・年2回の面談および、希望面談を実施し、保護者の方からの相談に応じている。 ・親子参加週間や個別療育等において、必要に応じて相談に応じている。 ・必要に応じて、多摩市発達支援室や子ども家庭センターなど他の関係機関と協力して行っている。		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	66.7%	33.3%	・保護者会は年3回開催し、その中でクラス別懇談会を実施している。 ・きょうだいの参加が可能な行事として、親子遠足を実施している。	・きょうだい同士の交流には至っていないため、工夫が必要。 ・保護者会の参加者が少なく、工夫が必要。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100.0%		・相談、意見、苦情等は、「コドモン」、口頭、面談、電話等の方法を周知しており、適宜対応している。		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	93.3%	6.7%	・月1回、「ひまわりだより」を発行し、活動や行事の予定、報告などを掲載している。		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100.0%		・多摩市及び法人の個人情報保護規定に則り、対応している。		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100.0%		・お便りは、英語版のものや、イラストや写真を載せる、ルビをふる、要約版などわかりやすいものを作成し、必要な保護者に配布している。		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	40.0%	60.0%	・地域の関係機関の見学や、実習生やインターンシップの受け入れを行っている。		

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		多摩市ひまわり教室	公表日 令和8年2月3日			
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100.0%		・各種マニュアルを策定し、職員に周知している。また、「コドモン」の「資料室」に公開し、ご家族にも周知している。 ・緊急時の対応や不審者対応、感染症の対応に関しては、実技を交えた研修を実施している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100.0%		・BCP（災害、感染症）は策定している。 ・月に一度の避難訓練、年に1回引き取り訓練を行っている。避難訓練では様々な状況を想定して実施している。 ・年に1回、災害備品の確認をしている。	・業務継続に関するシミュレーションや訓練はできていないため、実施方法などの検討が必要。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100.0%		・入園時に健康状況調査票を提出してもらい、毎年更新をしている。 ・資料は常に職員が確認できるように、ファイリングして整理している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100.0%		・入園時または発症時に、医師の指示書と保護者に依頼書を提出してもらい、指示書に則って対応している。 ・提出された指示書は職員間で共有している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100.0%		・安全計画を作成し、計画に則って研修や訓練、安全点検等を行っている。 ・利用する公園の安全マップを作成し、事前に確認したうえで活動を実施している。	・公園など課外活動で利用する場所の事前の安全点検が不十分であった。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100.0%		・安全計画は保護者連絡アプリ「コドモン」の「資料室」にて公開し、保護者に周知している。 ・取り組み内容は3月の保護者会にて報告予定。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100.0%		・毎日の振り返りで、ヒヤリハットを挙げる時間を設け、月、半期、年間で集計と考察をし、会議で共有している。早急に対応が必要な内容はその場で改善策を検討している。 ・職員のリスクへの意識を高めるため、年8回程度、危険予知トレーニングを実施している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100.0%		・年に一度、権利擁護研修、セルフチェックを実施。 ・スーパーバイズやオンブズマンを導入し、権利擁護の視点から指摘や助言を受ける機会を設けている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100.0%		・事業計画及び支援計画に記載し、面談時に保護者に説明し、同意を得ている。		